



令和4年度 宿利原小学校だより

宿っ子 10月号



学校のホームページは上のQRコードからお入りください



秋ですね ～読書のススメ～

校長 有留 盛昭

朝夕が肌寒くなり、自然の声もいつの間にかセミたちから鈴虫やコオロギたちに替わってきました。この季節は一日の寒暖差はありますが、夏の暑さや冬の寒さの間で、とても過ごしやすい季節ですね。

さて、10月初めの全校朝会では「読書」の話をしました。おいしい料理が出てくる物語は、読んでいて無性にそれが食べたくなります。そして、何回も読み直してお気に入りの本になることが多いです。2匹ののねずみが作るカステラや、虎がヤシの木をぐるぐる回ってできあがるバターで焼いたホットケーキなど、思い出すだけで食欲をそそります。

それではここで、読書に関するクイズです。宿利原小学校で一番の読書家は誰でしょうか。ヒント1「毎日、いつでも本を読んでいます。」ヒント2「背中にまきをかついでいます。」ヒント3「職員室の横にいて、ほとんど動きません。」答えは、「二宮金次郎」さんです。

たくさんの学校に「二宮金次郎」像がありますが、実際はどんなことをした人か知っていますか。1787年7月23日生まれの二宮金次郎さんは、今の神奈川県小田原市栢山の出身、子供の頃から働き者で勉強熱心な、身長182cm体重94kgの大きな人だったそうです。子供たちのお手本にと考えられて、小学校の教科書に登場したり、歌が作られて、小学校唱歌になったり、全国の小学校に像が建てられたりしたそうです。働きながら勉強して得た知識と行動力で、600以上の荒れ果てた村を立て直したそうです。

実はこの情報は、図書室にある伝記「二宮金次郎」に書いてあったものです。本の後ろの方から数ページ読んだだけで、わかる情報です。もちろん前の方から物語を読んでいくと、金次郎さんの一生がよくわかりました。児童のみなさん、右の写真の2冊が図書室のどこに置いてあるか知っていますか。お気に入りの本を思う存分楽しむのも素敵な時間ですが、この秋の読書では、なかなか普段手を伸ばさないジャンルの本に挑戦してみるのもいいですね。新しい世界に飛び込んでみましょう。



絵本画家の山脇(大村)百合子さんは、いつも楽しいお話を私達に届けてくださいました。



宿利原小一番の読書家



伝記といえば……。10月14日(金)の南日本新聞「南風録」では、先日の「イプシロン」6号機の失敗を受けて、発明王「エジソン」の言葉が紹介されていました。数々の発明品の裏にある膨大な数の失敗作について残した本人の言葉は、

こうです。「私は失敗したことがない。ただ、1万通りのうまくいかない方法を見つけただけだ。」この粘り強く挑戦する心が成功の秘訣なのかもしれませんね。次に活かすことができれば、失敗は存在しないのです。